

2011 年 9 月 1 日発行 第 125 号

目 次

P1 巻頭言 アカーマン副会長	P7 沖縄の家庭料理
P2 創立 30 周年記念事業	P8 エッセイ 三輪公忠名誉会長
P3 新入会員を囲む会	P9 上 ユースと外国人のための浴衣体験教室
P4~5 モンゴルの中学生受け入れ	P9 下 読者からの声
P6 MUA サロン 永野博先生	P10 事務局便り

自由のための識字



副会長 ウィリアム アカーマン

この文を読んでいるあなたは、世界人口の 83% を占めている識字スキルを身につけた 1 人である。UNESCO 統計局によると、2008 年において、およそ 7 億 9600 万人の成人が読むことまたは書くことが出来ず、その 3 分の 2 は女性であるという。

現代社会において、読む能力は、日々出会うさまざまな事柄を解決するためにも、また、個人の生活や家族の生活を向上させるためにも、欠くことのできない手段の一つである。

1948 年の世界人権宣言「The Universal Declaration of Human Rights」の中で、基礎教育（識字はそのための要となる手段）は、基本的人権の一つであると謳っている。しかし、識字率向上のための努力は、国レベルでも国際的レベルにおいても充分でないため、この権利は地球上の多くの人々によって認識されないままである。

早くも、「国連識字の 10 年（2003～2012）」の最終年に近づいている。国連総会は、この「識字の 10 年」を宣言することによって、識字が個人および社会を向上させるためには極めて重要な役割を担うことに注意を喚起し、また、識字は、平和、相互尊重、そして情報交換を促進するためにも大きな役割を果たすことを強調している。

国連総会の要請に応じて、UNESCO は「国連識字の 10 年」の活動を具体的に進めるために、「自由のための識字」（注）というスローガンを掲げ、国際社会が一丸となって連携しながら活動を推進してきた。

2005 年に UNESCO は、識字教育が最も必要とされる国々において、識字をもっとスピーディに普及できるように、政策、行動、資源を一体的に動かすために新たな体制をとり始めた。また、UNESCO は継続的に世界中の識字レベルを調査し、現行の識字プログラムの有効性を評価している。

〔(注)、日本では、「すべての人に教育を」というスローガンを使っている〕

UNESCO 統計局によると、2008 年における成人の識字率が最も低いのは、南アジア（62%）、サブ・サハラ・アフリカ（63%）、オセアニア（66%）、北アフリカ（67%）である。また、識字率の男女差の最も大きいのは南アジア（男性：73%、女性：51%）、サブ・サハラ・アフリカ（男性：72%、女性：54%）、北アフリカ（男性：77%、女性：58%）である。

「国連識字の 10 年」の間、最も貧しく、最も取り残された社会グループの人々に識字教育を普及するために、いろいろな努力が払われてきた。しかし目標が達成したというにはほど遠い状況である。その上、達成すべき目標は常に変化している。最近まで、識字とは、単に、印刷された文字を読むことが出来ることを意味していた。しかし、今日では、識字（リテラシー）は、情報通信技術（ICT）、つまり、e-mail、text messaging、Word-processing programs、web browsers などを使いこなす能力をも含めるようになっていく。（2 頁下へ続く）

港ユネスコ協会は1981年10月17日に創立いたしました
2011年10月17日は創立30周年記念日です。

下記の4つの記念事業を行います。

皆様のご参加、ご協力によって、ぜひ成功させましょう。

企画・運営組織は下記のとおり。実行委員長：中川統夫副会長

- 1) 【設立 30 周年記念誌発行】 責任者：棚橋征一副会長
担当委員会：広報プレティン・インターネット委員会
発行時期：全ての 30 年記念事業が済んだ後とし、記念事業の報告も入れる。

- 2) 【創立 30 周年記念パーティ】 責任者：中川統夫副会長
担当委員会：会員開発委員会

日時：10月17日(月)午後6時～8時30分

会場：国際文化会館・岩崎小彌太記念ホール

内容：記念式典、長年の会員や貢献者への表彰、食事など

- ### 3) 【特別公開プログラム：「日本文化と世界遺産」】

責任者：松本洋副会長

担当委員会：学術文化委員会

日時：2011年9月3日（土）午後1時30分～4時15分

会場：赤坂区民センター区民ホール

内容：第1部 基調講演「日本文化と世界遺産～平泉の登録をめぐって」

文化庁長官 近藤誠一氏

- ## 第2部 映像と対談「世界遺産を考える」

近藤誠一長官／NHKエンタープライズエグゼクティブプロデューサー須磨章氏

- 第3部 箏策（ひちりき）演奏

雅楽師 東儀秀樹氏

- 4) 【特別事業：「歌と踊りで世界をめぐる」】

責任者：清水軍治副会長／菊地賢介監事

担当委員会：世界の料理委員会・国際理解講座委員会

ユース活動委員会・語学研修委員会

みなと区民まつり委員会

日時：2011 年 11 月 19 日（土）午後 2 時～4 時 15 分

会場：高輪区民センター区民ホール

内容：出演グループは下記のとおり

東京インターナショナル・スクール（小学生合唱部、中学・高校生ダンス部、エレキバンド部）

テンプル大学ジャパンキャンパス (ダンス)

ロシアの歌と踊り(依頼中)

韓国民族音楽と舞踊

スコットランドのバグパイプ°

メキシコの歌とギター

アルゼンチンタンゴ・ダンス

白門グリークラブ（男声合唱団による日本の歌）



(巻頭言 1 頁から続く)

毎年 9 月 8 日に UNESCO が行う国際識字デーの式典で、「識字は、個人にとってのみならず、社会にとって、そして地球社会にとっても重要である」と強調している。ちなみに、2011 年の国際識字デーのテーマは、「識字と平和」である。

私は、港ユネスコ協会の会員の皆様一人ひとりに、ぜひ、UNESCO の識字推進運動を支援し続けるようにお勧めしたい。国連識字の 10 年はまだあと 1 年残っている。皆さんが識字運動を支援することによって、この 1 年に、地球上の何百万という人々の生活の向上に手助けが出来るのである。（訳：高井光子）

(訳：高井光子)

「新入会員を囲む会」、気持ちも新たに開催！

日時：2011年5月19日(木) 18:30～21:00

場所：港区立生涯学習センター305室および当協会事務局

「新入会員を囲む会」は、過去1年間に当協会に入会された新入会員の方がたに、当協会の歴史や、現在の活動をより良くご理解いただき、併せて、新旧両会員との親睦・交流を深めるための恒例事業です。

下記の8名の新入会員が出席されました。(お名前・入会順、敬称略)

永野博、吉原洋美、塩瀬正明、関友哉、森村俊介、末永真菜美 金有希 田部揆一郎

第一部 オリエンテーション (305号室)

中川統夫副会長の司会でスタートしました。

最初に、高井光子会長からの下記の主旨の歓迎の挨拶がありました。

当協会は1981年10月17日に創立し、今年30年になります。当初から『共に生きる平和な地球社会を目指す』というユネスコ活動」と、『国際都市港区』の地域性を生かした国際理解・国際交流を進める活動」の数々を展開してきました。当協会が常に生き生きとした組織であり続け、さらに発展していくためには、皆様から積極的にアイディアを出していただき、時代に即した、そして時代を先駆ける活動を取り入れていくことが必要です。ぜひ積極的にご参加、ご協力下さるようお願いいたします。

続いて、棚橋征一副会長から、当協会の概要について丁寧でわかり易い説明がありました。

当協会は「地の利」、「人の利」の両方に恵まれています。港区の歴史を振り返ると、1850年代以降、欧米列強は次々とその公館を域内の寺院内に開設しています。開国当初から国の近代化・国際化の第一線を担った場所なのです。今日でも、都内にある外国大使館のうち、過半が港区にあり、区内在住の外国人比率も約10%に達する事実からその伝統が感じられます。一方、当協会の役員リストを見て頂くと、教育、外交、政治、国際交流・文化など各分野で活躍されてきた人材に恵まれていることが判ります。ぜひ、新しいユネスカンとして、当協会の活動に参加し、これを実感して下さい。

この後、8つの委員会の活動について委員長（または、担当常任理事）から、説明がありました。どなたも、カラフルな大きなパネルや、チラシを用いて、「自分の所属する委員会に入っていただきたい、一緒に活動に参加していきましょう」という、熱のこもった呼びかけがありました。この説明こそ新入会員の皆様にとって、ご自分の活動分野決定に有益な参考になりました。

説明して下さい方は以下のとおりです。

1. 会員開発委員会 —— 成瀬成子委員長
2. 広報プレティン・インターネット委員会 —— 棚橋征一副会長
3. 学術文化委員会 —— 佐野幸子委員長
4. 国際理解講座委員会 —— 奥村和子委員長
5. 語学研修委員会 —— 友金守常任理事
6. 世界の料理委員会 —— 今村孝子常任理事
7. みなと区民まつり委員会 —— 北岡修委員長
8. ユース活動委員会 —— 平方一代常任理事



第二部 懇親会 (事務局)

秋山雅代常任理事と三好潤副委員長の司会のもと、お待ちかねの「懇親会」となりました。松本洋副会長の乾杯の音頭でスタートしました。松本副会長は「3つのP・3つの心」を行動指針としてやってきたと解説された後、参加者の活発な活動を祈念されました。(松本語録はプレティン122号を参照下さい。)

限られた予算にもかかわらず、量・質ともに心のこもった料理を楽しみながら交流が盛り上がりました。



圧巻は、新入会員の「自己紹介」で、8人が8人ともに独自の豊かな経験と特技や知恵をお持ちであるとわかり、当協会に新風と活力を吹き込んでいただけると強く感じました。

各委員会への所属依頼活動も積極的に行われていましたので、結果が楽しみです。あちこちで熱気の高まる会話も、時間切れとなってしまう、友金が閉会の挨拶を述べました。

最後に、塩瀬正明さんの元気溢れる「フレー、フレー、港ユネスコ！」で、静に幕を閉じました。

(会員開発委員会担当常任理事 友金守)

モンゴル中学生訪日団の東京滞在を受け入れて

東京滞在：2011年7月6日(水)～7日(木)

訪日団：校長先生、副校長先生、生徒6名（男女各3名、10歳～13歳）

モンゴルの首都ウランバートル市の私立オユニトルガ小中高一貫校では、外国語の一つとして日本語を教えています。今回、初めての訪日団として、生徒6名と校長先生(女性)と副校長先生(男性)が、7月2日～11日の日程で、日本体験、文化交流、相互理解を深める目的で、宇都宮市と東京都内に滞在しました。

招聘者は宇都宮市の「いっくら国際文化交流会」。会長の長門芳子さんが港ユネスコ協会の30年来の理事を務める関係で、東京滞りは港ユネスコ協会が受入組織となりユース活動委員会がお世話をしました。

2日間の東京滞りには、通訳・世話係として、宇都宮大学・モンゴル留学生のゾリゴー君とハマさんが同行してくれました。

モンゴルの面積は日本の約4倍、人口は約278万人。首都ウランバートルの人口は約115万人という広々とした国から来た生徒たちは、驚きと感動の連続だったようです。

東京滞りの日程

7月6日(水) 7:33 宇都宮駅から新幹線(Max2階立て)に乗車。 8:28 東京駅着

9:30～1:30 港区立高陵中学校訪問、モンゴルと日本の文化交流に参加し、給食を楽しむ。

14:30 新橋駅から「ゆりかもめ」に乗り、日本科学未来館見学。

18:00～19:45 港区立生涯学習センター101室にて、港ユネスコ協会主催「モンゴル紹介の夕べ」

21:30 代々木公園にある国立オリンピック記念青少年センター宿泊棟に宿泊

7月7日(木) 9:30 駐日モンゴル大使館へ、ジグジット大使表敬訪問。

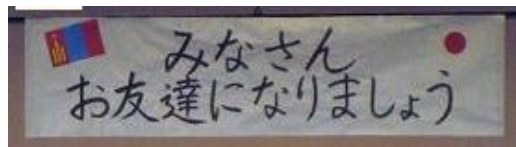
11:00 東京都庁45階展望室から大パノラマを眺望。上野動物園へ。パンダ・ライオンなど見学。

15:46 上野駅から新幹線にて宇都宮駅へ。



東京での一番の目的は、港区立高陵中学校（西麻布4丁目）での交流です。高陵中学校は2010年に新校舎が落成したばかりで、最先端の設備を備えています。

まずは、素晴らしい校舎に目を見張っていました。



新庄恵子校長先生はじめ先生方と2年生全員による、心のこもった歓迎に感動していました。

高陵中学校側のプログラム：生徒からの歓迎の言葉。

新庄校長先生のお話。

2年生全員による「浜辺の歌」「夢の世界を」の歓迎の合唱。

和太鼓演奏（訪問団の体験）。

琴演奏。コミック紹介。福笑い(訪問団も参加)。

会場の体育館には、生徒さんが描いたモンゴルをイメージした絵や、正面には「みなさん、お友達になろう」という立派な習字の作品が貼られていました。大勢の生徒さん達がそれぞれ手分けして、歓迎の準備を進めてくれていたことがわかりました。





訪問団側からは、まずは、留学生ゾリゴー君が制作した日本語のモンゴル紹介の映像。トルガ君の馬頭琴演奏。日本訪問に備えて全員で日本語の歌詞で歌えるように練習してきた「ふるさと」と「幸せなら手を叩こう」を歌い、モンゴルの歌とダンスを披露しました。最後は、トヤ校長先生のお礼の言葉。



「給食体験」 事前打ち合わせ時、「モンゴルではチキンが最高のご馳走だそうです」とに、ふともらしたこちらの言葉を受けて、メインの献立はチキンステーキ丼でした。私たちも美味しくお相伴しました。

モンゴルの生徒達は、大勢の前で堂々と自分の国の文化を紹介でき、屈託なく楽しく相互交流ができたことがとても嬉しかったようです。「こんな学校に入りたい」と生徒たちは口々に話しておりました。

高陵中学校訪問の後には、「ゆりかもめ」に乗って、日本科学未来館へ。東京ベイエリアを巡って走る、無人運転の「ゆりかもめ」には、ことさら関心を持ったようで、車両の先頭に立ち、海や周りの景色に目を凝らせて見つめていました。



午後 6 時～ 7 時 45 分、港ユネスコ協会主催で、港区立生涯学習センター101 号室で、区民、会員、一般参加との交流会「モンゴル紹介の夕べ」を開きました。

司会は、大学 4 年生の関友哉君と高橋直太君、そして、韓国からの留学生金有希さんの 3 人。

若々しい感性で、モンゴルの生徒達から率直な意見や感想を引き出し、参加者と楽しくなごやかなコミュニケーションをはかって下さいました。

モンゴルの生徒さん方は、馬頭琴演奏、モンゴルの歌や踊りを堂々と披露してくれました。交流会の最後には、清水軍治副会長のアコーディオン演奏に合わせて、会場にいる全員で「ふるさと」「幸せなら手を叩こう」を歌い、盛り上がりました。

東京を 2 日で体験するという分刻みのスケジュールでしたが、はちきれんばかりの元気な生徒さん達は、あらゆることに好奇心にみちた目を輝かせていました。きっとそれぞれの胸に数々の思い出が刻まれたことでしょう。

最後になりますが、訪日団を快く受け入れて下さった高陵中学校の新庄校長先生、小幡副校長先生はじめ諸先生方と 2 年生の生徒の皆様にご心からお礼申し上げます。

(ユース活動委員会)



「好奇心を旺盛に」 話者：永野博先生

日時：2011年7月20日(水)18時30分～21:00 会場：事務局

MUAサロンは、会員のための会員によるお話を聞く会であるが、今回は、昨22年に入会された永野博先生（政策研究大学院大学教授、科学技術振興機構研究開発戦略センター特任フェロー）にお話しいただいた。台風接近予報のため16名の参加となったが、楽しい集まりでした。



はじめに司会者から先生のプロフィールの紹介があった。驚くほど多彩なご経歴をお持ちだと初めて知り、本日のテーマの意味を納得した。プロフィールは文章の中で紹介して行きたい。

「目の前の景色が変わることが好きで、乗り物に乗るのが好きだ」と、笑顔一杯で話された。幼少時期には北千住に住んでおられたとのこと。ドイツオペラに関心があったので、高校ではドイツ語を選んで学ばれたとのことでした。

大学は工学部・機械工学科で学ばれたが、この間ドイツ語をマスターし、西ドイツのアーヘン工科大学に7か月間聴講生として在籍された。当時の学生の常として横浜からナホトカを経由してシベリア鉄道でドイツまで行ったが、中ソ国境紛争の起こっているナホトカ～ハバロフスク鉄道沿いの、軍隊による警備を目の当たりに見たりするなど、世界はいろいろな事が起こっていることを身近で実感されたそうです。

工学部の卒論はドイツ語で書かれたとのこと。もっと学び続けたいと法学部政治学科に学士入学され、結局、2つの学部、休学を含め7年間大学に在学して学ばれたことになった。その後、2つの公務員試験（外務、経済）を受け、迷うが科学技術庁に入職された。先生の旺盛な好奇心や挑戦する姿は驚くばかりである。

1973年科学技術庁に入職。勤務時間管理がない非効率な職場に少々驚かれたとか。入職3年目に人事院留学制度により2年間ドイツ・ミュンヘン大学へ留学。住まいから大学へ通う途中にミュンヘン・オペラ座があり、学業の合間にオペラ座によく足を運ばれた。これがご縁で、現在、日本オペラ振興会の理事長を引受けておられる。

1983年、在西ドイツ大使館に赴任。この頃ドイツの再統一を信じるドイツ人は誰1人としていなかったと語られた。この時期、ゴルバチョフがソ連共産党書記長に就任するなど、壁が壊されることになった経緯を話された。帰国後の1986年4月チェルノブイリ原発事故があり、1989年にベルリンの壁崩壊が起こった。

科学技術庁・国際課勤務時代（1987～1991年）に日米科学技術摩擦問題が起こり、原子力国際課勤務中（1994～1996年）には田中真紀子大臣とIAEA（ウィーン所在の国際原子力機関）総会に参加された。その後若手研究者の支援を担当された。2001年NPO法の改正により科学技術の振興を対象に含めることを提言し、実現した。草の根から変わらないと今の国家統治システムでは日本は動けないと話された。むつ科学館建設にも関わられた。

ユネスコ関係では、2002年に国際統括官、日本ユネスコ国内委員会事務総長に就任された。



「ユネスコ本部」「国内委員会」「日本ユネスコ連盟（地域ユ協）」の3者の連携関係を築くのが大切だと確信していると語られ、日ユ協連の関東ブロック・ユネスコ活動研究会（栃木県や東京都開催）にも参加されている。

持続可能な開発に関する世界首脳会議、ヨハネスブルグ・サミットに参加された。

1年前まで国際熱核融合実験炉・財務監査委員会議長を務め、OECD科学技術政策委員会グローバル・サイエンス・フォーラム議長は今も務めておられる。

濃い内容の話の後、出席者から多くの質問が出た。その内容は省略させていただくが、先生のお話の最中に「なるほど」「そうですね」などと相槌を打っている参加者のレベルの高さにも驚いた。

強い精神力、好奇心を持って何事にも挑戦するお姿やお人柄と、ご経歴を拝聴しあらためてすごい方だと思った。多国語を話せることもご活躍のベースに有ると感じた。またご両親との関わりはいかがだったのか知りたい気もする。折角のお話に、若い方の参加が少なく残念に思った。永野先生と参加された皆さんに心から感謝いたします。

（会員開発委員会副委員長 井口フミ子）

沖縄の家庭料理

日時：2011年7月30日（土）12：00～15：30

会場：港区立男女平等参画センター4階 料理室

講師：山畑喜一さん（沖縄料理店代表）



三線演奏：岡村聡士さん 映像提供：永井昌さん 泡盛試飲提供：又吉生磨さん

今回の世界の味文化紹介は、日本を見直そうということで、知っているようで知らない「沖縄の家庭料理」を沖縄本島出身、沖縄料理店代表の山畑喜一さんを講師に迎えて開催しました。

まずは、沖縄の美しい海、青い空の映像を見て沖縄旅行に行った気分を味わった後、三線（沖縄の弦楽器）演奏家の岡村聡士さんにオリジナル曲の「首里恋歌（すいれんか）」を歌っていただきました。三線のゆるやかな調べにのせて淡い恋心を沖縄の方言で歌ってくださり、参加者の皆様もうっとり聞き惚れていらっしゃいました。沖縄は「芸能の島」と言われるほど、文化の発達した島だそうで、これは小国であった琉球が武器を持たずに諸外国と外交交渉を行うために、芸能に力を入れていたことによります。戦後の物不足の時代でさえも、空き缶やパラシュートの紐で「かんから三線」を作って音楽を心の支えにしていたそうです。



沖縄では食に関する文化も発達していて、豚などは内臓から耳、足、そして血までが料理の材料となるため、鳴き声以外は捨てることなく全て食べるといわれるほど料理の種類が多いようです。これら沖縄の文化紹介の後に料理実習に入りました。

メニューは、ラフテー、ゴーヤチャンプルー、サーターアンダギー、青パパイヤサラダ、ゴーヤのわた天ぷら、アーサのスープの6品です。

ラフテー 豚皮付き三枚肉を使った角煮のことで、とろとろになるまで柔らかく煮込まれていて、とても美味でした。さすがはプロの味、豚を知り尽くした沖縄の味という感じです。

ゴーヤチャンプルー ほとんどの人が一度は耳にしたことがあるかもしれない沖縄の代表的な家庭料理です。チャンプルーは沖縄の方言で、炒め物という意味になります。今回はゴーヤと沖縄の島豆腐、ポーク缶を使ったボリュームたっぷりのチャンプルーを作りました。

サーターアンダギー 沖縄風のドーナツのこと。沖縄の方言でサーターは砂糖、アンダーは油、アギーは揚げるで、サーターアンダギーは砂糖と油で揚げたお菓子という意味になります。サーターアンダギーの種を混ぜるのには力がいり、一人ですっと混ぜるのは疲れるので、家族と交代で混ぜながら一緒に料理を作ってみるのも楽しいですね。



青パパイヤサラダ シャキシヤキした歯ごたえの爽やかなサラダでした。

ゴーヤのわた天ぷら ゴーヤチャンプルーで使ったゴーヤのわたを使った残り物活用レシピです。食材を残すことなく使用するエコの精神が感じられます。

アーサのスープ アーサとは海藻のことで、沖縄らしい海の香りのする優しい味のスープでした。作り方も簡単なので汁物が欲しい時に、ささっと作れていいかもしれません。



6品を通して、沖縄料理は和食を含めた東アジア料理に、東南アジアとアメリカの影響を受けて発展した独自の料理だということを感じました。

今回の教室では琉球泡盛の試飲も行われ、泡盛を提供してくださった又吉さんが各テーブルを回ってくださり、お酒好きの参加者の皆様に大好評でした。泡盛は米から出来ているので、どんな料理にも合うそうですよ。ぜひ皆様もご家庭で泡盛を片手に沖縄の家庭料理でプチ旅行気分を味わってみてください。

また、映像を担当してくださった永井さんが、料理実習の様子を一枚の素敵なDVDに編集して食事の最後に流していただきました。皆さん良い思い出になったと思います。

沖縄の文化を紹介してくださった山畑さん、岡村さん、永井さん、又吉さん、そして暑いなか参加してくださった皆様、どうもありがとうございました。料理委員会ではこれからも皆様に楽しいお話を聞きながら、美味しく学べる空間をお届けしますので、今後の「世界の味文化紹介」もご期待ください。（世界の料理委員会委員 岩崎美穂）

第二の戦後、第二の敗戦

名誉会長 三輪公忠



3・11 から五か月。ますます暗く、希望がない。第二の敗戦、第二の戦後と呼ぶ人がいる。地震と大津波、見かけは空襲の焼け跡に似ていないこともない。しかし第二の敗戦、第二の戦後と呼ぶのを躊躇する。人心が違うのだ。第一の敗戦、第一の戦後には、希望があった。贖罪があった。戦後史の評定がどうであろうと、東京裁判で、犯罪が裁かれ、刑が執行された。だからさばさばしたし、民主主義、自由主義の希望、経済再建の努力は日に日に報いられていった。

しばし中国に対してさえ、うしろめたい想いはなかった。中国の戦後復興に日本の ODA が貢献していると聞き、かえって中国側が「ありがとう」と一言も言わないのを何故といふかった。

ところがここへ来て、中国の軍事力の拡大が脅威として報じられ、日本の平和主義はゆらぐのだろうか。大国中国、経済力ですでに日本を抜き、次の世代にはアメリカも追い落として世界一の経済大国になるという。人口は 17 億と推計されることもあるが、公称 14 億としても、世界人口は 70 億弱だからほとんど五人に一人は中国人である。その中国に我々は何を期待してきたのか。少なくとも私は、現政権下の中国に一つの大きな期待をあえて抱いた。それはそうならなかった場合への恐怖の裏返しであった。

中華帝国という呼び名があった、最後の王朝、満州族の清朝は 1911 年の辛亥革命で国民党政権にとって代わられた。それからの政治史をここで論ずるつもりはない。ただ中華帝国というときその統治原理を思い出すのだ。それは「徳治主義」と呼ばれて、西洋近代がヨーロッパ外にもたらし、日本もそれに加担した支配と搾取の原理「法治主義」と対立するものとされた。皇帝の徳による支配をいうのである。背景に儒教とその文化がある。

共産党政権の下で、人民に幸せをもたらそうと励みつつ、大国を再編した指導部は、次なるステップを海外に向けている。華夷秩序、朝貢関係が隣接国はもちろんのこと、アラブ世界にまで及んでいた王朝時代の中華帝国よろしく。もし自発的に貢物を届けてこなければ、大艦隊を仕立て中華皇帝の威信をかけて紅海あたりまで、取り立てに行ったものだ。現代は資源の確保のための経済援助が進んでいる、これが「徳治主義」として完結するのを祈らずにはいられない。

震災、大津波、原発事故＝放射能汚染で、人々は暗く希望を失っている。第一の敗戦、戦後にはあった、明るさが、第二の戦後にはないのは、中国が昔の軍国主義下の大日本帝国よろしく日本の周辺で行動し始めてすでに久しいからである。それに加えて、領土問題はロシアとも韓国との間にも解決の見通しが見えないままそこにある。

しかし 3・11 以降の人心の暗さをメディアで語る人の口から、中国ファクターを聞くことは絶えてない。

(2011・8・15)



ご参加下さい

2011 年度 関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 成田

日時：2011 年 10 月 15 日(土)～16 日(日) 会場：成田ビューホテル

UNESCO 加盟 60 周年記念「今こそ、ユネスコ活動の活性化を！」

持続可能な人類社会の実現に向けて

—持続発展教育・未来遺産運動・世界寺子屋運動の推進—

関東ブロック各都県のユネスコ活動関係者が一同に会し、相互の交流を深めつつ共通する課題について研究を進めるとともに、広く地域住民の関心を高め、ユネスコ活動の普及振興を図る研究会です。

2 日目のエクスカッションは、成田山新勝寺及び参道の歴史文化の体験・鑑賞です。

お申込みは、港ユネスコ協会事務局までお願いいたします。

ユースと外国人のための浴衣体験教室

2011 年 7 月 9 日(土) 13:00～16:00

港区立生涯学習センター203 号室 (和室)



浴衣着付けの講師をつとめて下さったのは、会員の山田陽子さん、助手は佐藤美子さんと江原音子さんのお二人でした。

初めて体験される外国人は大変に喜ばれ、着心地を楽しんでおられました。どなたも浴衣を着れば洋服の時と雰囲気さがらりと変わります。もっと浴衣を着る機会が増えれば、日本の若者にも浴衣のよさがわかってもらえるのかもしれないと思いました。

以下に、参加者（三田高校 1 年 澤田萌加さん）の感想をご紹介します。

＜今回三田高校に来ているフランスからの留学生マリーさんと一緒に参加させてもらいました。着付け教室などは初めての体験だったので、何をすればいいのかわからなかったのですが、担当の方がとても親切に教えてくださったので、とてもわかりやすかったです。

マリーさんも、教室にフランスから来ていた女の人が参加されていたので、その方と楽しく話しながら体験していました。私はこれまで浴衣を着たことはありませんでしたが、自分で 1 から着たことがなかったので、はじめは戸惑いました。でも少しは着られるようになったので、今年の夏は浴衣を着てお祭りに行ってみたいと思います。

最後にみんなで浴衣を着たままで、いただいたお茶はとてもおいしかったです。ありがとうございました。＞



お陰さまで参加者の皆様から、とても楽しかったと好評をいただきました。(ユース活動委員会)



「読者からの声」

(編集部注) 昨年(2010 年)11 月 17 日に当協会が開催した国際理解講座「アフリカの現在と未来：ジャーナリストの視点から」においてジャーナリスト(元朝日新聞編集委員)の松本仁一氏が行った講演の内容を、当協会が発行しておりますブレティン(和文版：2011.3.1 日付、英文版：2011.6.6 日付)に掲載したところ、在日ジンバブエ大使館の Chamboko 参事官から下記のコメント(抄訳)が寄せられました。

記

当日、松本仁一氏がジンバブエ共和国に関して話された内容は、伝聞と推測(hearsay and speculative)に基づくことは明らかであり、参加された会員の皆さんが我が国に関して不正確な理解(特にムガベ大統領閣下に関して)をされたのではないかと危惧するものであります。また、ブレティン読者も松本仁一氏の主張によってミスリードされる恐れがあり、このことは我々の目から見ると、協会員にとっても我が国にとっても、アンフェアなことであります。

在日ジンバブエ大使館 参事官 Gibson Chamboko

編集部からの回答

上記講演会で表明されたアフリカ(ジンバブエを含む)に関する意見は松本仁一氏がジャーナリストの立場で個人的に表明したものであり、港ユネスコ協会の意見を反映したものではありません。また、上記 Chamboko 参事官のご意見は日本のジンバブエ大使館の見解であることをお伝えします。

事務局便り



【今後の行事予定】（詳細は別途、チラシやホームページでご案内いたします）

- ☆9月17日（土） 9:15～10:00(ワ) 10:30-14:45(鑑賞) 日本文化紹介「文楽」レクチャーと鑑賞（国立劇場）
- ☆10月2日（日） 日帰りバスツアー「富士の麓へ」フジヤマミュージアム、富士山レーダードーム館など
- ☆10月8日(土)～9日（日） みなと区民まつり参加（港区芝公園一帯）
- ☆10月12日（水） 18:30～国際理解講演会「変わるインド、変わらないインド」（生涯学習センター305室）
- ☆10月15日(土) 13:30～16:00 茶の湯体験教室（生涯学習センター203室）
- ☆10月15日(土)～16日（日） 日ユ協連・関東ブロック研究会「今こそ、ユネスコ活動の活性化を！」（成田市）
- ☆10月17日(月) 18:00～20:30 創立30周年記念パーティ（国際文化会館）
- ☆11月19日(土) 14:00～ 創立30周年特別事業「歌と踊りで世界をめぐる」（港区立高輪区民センター区民ホール）

【ご支援のお礼とお願い】

☆東日本大震災 子ども支援（日ユ協連）義援金：奨学金（災害遺児への奨学金）として活用されます。

*「モンゴルの中学生を迎えて、交流の夕べ」会場での募金 6,341円（2011.07.06）

随時、ご寄付をお受けいたします。あたたかいご支援、ご協力をお願いいたします。

☆ミンダナオ子ども図書館への物品寄贈は継続しています。事務局へお届け下さい。

物品（夏物衣料、バスタオル、タオル、シーツ、スニーカー、リックサックなど）



【事務局長交替のお知らせ】

- ◎ 前事務局長の水野隆氏が、6月30日を以ってご都合により退任されました。2年10か月の間たいへんお世話様になり有難うございました。ご尽力に対し、厚くお礼申し上げます。引き続き、常任理事として諸委員会でご活躍下さっています。
- ◎ 7月1日から、吉永高顕氏が新たに事務局長の任に着かれています。新事務局長の吉永さん、今年は特に、記念事業が多く、お忙しく、またご苦勞が多いことと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

港ユネスコ協会事務局（火～金 10:30～17:30）

〒105-0004 東京都港区新橋 3-16-3 TEL 03(3434)2300 TEL・FAX 03(3434)2233

Eメール：minato-unesco@nifty.com

ウェブサイト：<http://minato-unesco.jp/>

■ 編 | 集 | 後 | 記 ■ ◆終戦記念日があることも影響するのか、毎年8月には常に増して頭が戦争を考えるモードになるようである。つい最近百田尚樹氏の『永遠の0（ゼロ）』を読んだ。"0"は零戦のことであり、第二次世界大戦を扱った作品である。戦争を遂行する日本という組織に如何ともしがたくまかり通る不条理について、直感的に理解できる言葉遣いと表現で書かれている。有意義な読書であった。（須田康司） ◆ことは9.11同時多発テロが米国を襲ってから10年目となる。テロ発生直後、米国ではマスメディアが「これは第二のパールハーバーだ！」とヒステリックに報じていた。この事件を機に、在米アラブ系アメリカ市民の生活は一変し、かつてパールハーバー直後に日系アメリカ人が人種差別や強制キャンプ収容などの辛酸をなめたように、不当な差別、猜疑心、暴力などに晒されることとなった。先日、全米アラブアメリカン博物館の創設に主導的役割を果たした女性館長の講演を聴きながら、ユネスコが提唱する「民族間の疑惑と不信を除こう」の重みをつくづく感じた。（棚橋征一） ◆夏になると、童心に帰ってアゲハ蝶の成長をみるのが毎朝の楽しみです。ペランダの柑橘類にアゲハ蝶が何度も卵を産みつけにきます。白っぽい卵が黒っぽい幼虫に変わり、さらに脱皮して緑色となり、5cmぐらいになると人目につかないところで蛹になります。保護色ながら、かくれんぼの上手い蛹と下手な蛹がいます。これが2週間くらい経つと、朝早くに羽化して飛び立っていきます。ところで、昨年秋口に産みつけられた卵は秋の間に蛹にはなれたものの、羽化できずいくつも蛹のまま冬を迎えました。どうなることかと見守ってきましたが、今年の初夏朝早くにそれぞれ羽化して無事旅立って行きました。昆虫の生命力の逞しさを垣間見たしだいです。（水野隆） ◆港ユネスコ協会は今年10月17日、満30歳になります。4つの創立30周年記念を祝う事業（2頁に掲載）が、各担当委員会のもとに計画されています。皆様、ぜひともご参加下さい。そして、新たな気持ちで前へ進みましょう。（高井光子）